

令和4年度 いのちの授業 事例集（中学校）【 理科 】

掲載数

6

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 相模原市	中1	理科	地震の学習	地震の発生のしくみ等を理解する中で、命を守るための学習を学んだ。	道徳教科書
2 相模原市	中3	理科	生命の誕生	相模原市内の内水面試験場で保護されている藤沢メダカを借用して、理科の実験の中で有性生殖を行わせた。その受精卵の卵割を観察後、数日前に受精した受精卵の胚に生じている拍動の観察させる。 授業の最後に拍動のある胚を潰すように指示した。（実際には潰させない）この授業を通して生命はどの時点で生じているのかを考えさせた。	身近に流れる川に昔生息していたメダカを実際に使用することで、環境教育の観点でも指導ができた。
3 湘南三浦	中2	理科	生命を維持するしくみを振り返りわかったこと	消化・吸収の仕組みや血液循環や肺のガス交換の仕組み、腎臓などの排出器官の仕組みの学習で必要な知識について理解した後、もしもそれらの仕組みが病気や怪我を受けたらどうなるか考えた。元気に運動できること、健康に生きれることの精妙さ、素晴らしさを感じさせる記述が見られた。	
4 湘南三浦	中3	理科	生物どうしのつながり	実際に、様々な種類の動物を飼育し、その生態を観察することを通して、それぞれの生物が、生きるために何が必要で、そのためにどのようにつながっているかを学び、それぞれのいのちの尊さについて学んだ。	飼育している、10種類以上の魚類、は虫類、両生類、哺乳類
5 県央	中2	理科	何気なく食べているものの解剖を通して、数多くの身近ないのちについて考える	理科の「生物の体のつくりとはたらき」という単元で、「ハツ（にわたりの心臓）」の解剖を行った。人間の心臓と同じ作りであるため、人の心臓のつくりを理解することが目的であった。その感想の中には、「小さくても生きていることを実感した。」「何気なく食べている鶏肉も、元はいきていたんだな。」など、何気ない日常の至る所に、「いのち」があることに気づくことができていた。そこから、生き物やいのちに対する関心を高めることができていた。	
6 中	中2	理科	生命を維持する働き	生命を維持する体のしくみについて、消化器官、循環器官等の働きを学習する。	理科教員が指導した。